

危険が潜みやすい環境

皆さんの生活の中で、危険が潜みやすい環境はないでしょうか。一見、安全に見えても人通りや時間帯によって注意が必要な場合もあります。自分自身だけでなく、家族の目線でも確認してみましょう。



路上駐車

不用意な路上駐車は、周囲からの見通しをさえぎる場合や、車を利用した犯罪に利用される危険性があります。また、自身の車を路上駐車した場合、車上荒らしなどに狙われる場合もあります。

【注意点】

- 不審者が、車の陰に潜みやすい
- 不審な車の発見が難しくなる

高架下や地下道

高架下や地下道など、トンネル状の箇所は周囲から見えにくいだけでなく、誰でも入りやすい場所のため注意が必要です。通行人が少ない場合や周囲に民家などがないと、より危険性が高い場所となります。

【注意点】

- 昼夜問わず、人の気配を感じにくい
- 通路や道路のため待ち伏せなどがしやすい

空き地・廃墟

管理がされていない空き地や廃墟は、周囲からの目が届きにくく、不審者が身を隠しやすい環境です。

【注意点】

- 周囲に気付かれにくく、緊急事態を知らせることが困難
- 空き地や廃墟の敷地に車を潜ませ、連れ込まれる

万が一の事態に直面した場合は、

- **とっさに大声を出す**
- **防犯ブザーを使用する**
- **動ける状況なら、まず距離をとる**

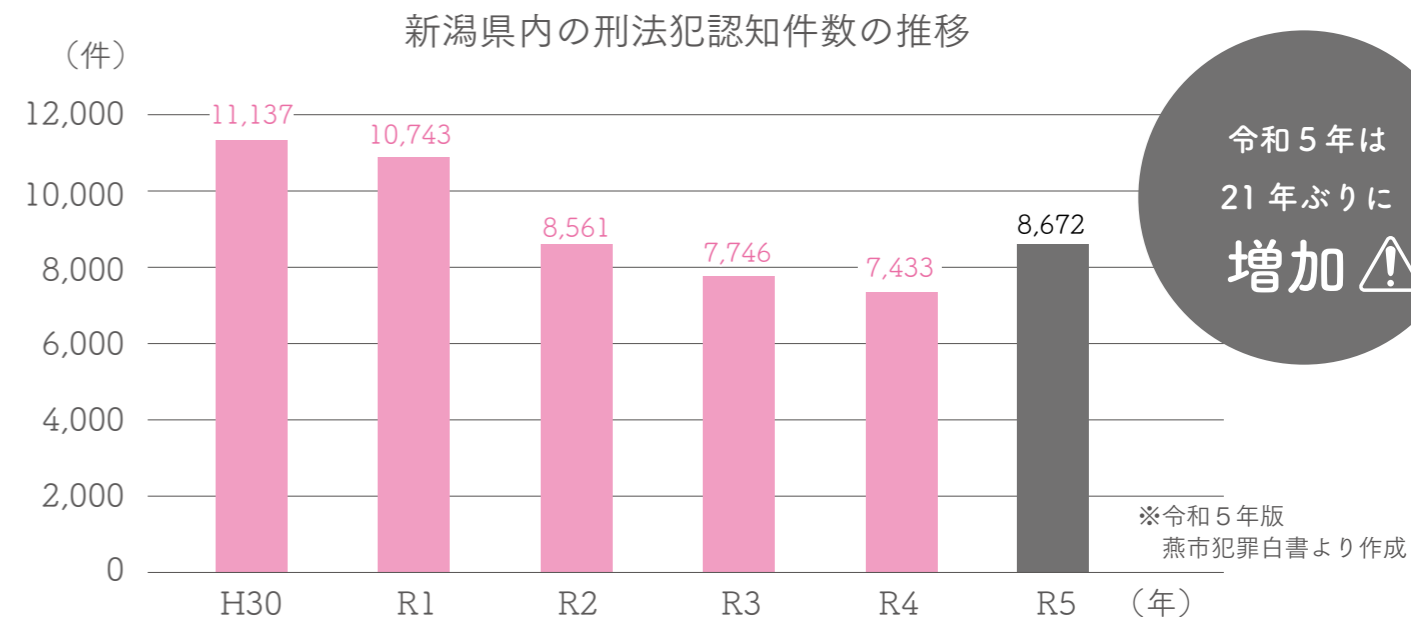
ことを心がけましょう。

特集

燕で安心して暮らすために

令和5年中、新潟県内での刑法犯認知件数は8,672件で、前年から1,239件増加しました。これまでは、平成14年の35,947件をピークに減少傾向を示していましたが、21年ぶりに増加に転じました。

新生活や新たな環境に慣れ始めた5月。「犯罪は他人事」と油断は禁物です。犯罪から家族や財産を守るため、一人ひとりが正しい防犯知識を持ち、被害を未然に防ぐことを心がけましょう。



topic

知っていますか？ 割れ窓理論

「割れ窓理論」とは、建物の窓ガラスが割られたまま放置されると、注意が行き届いていないサインとなり、やがて全ての窓ガラスが割られるという理論です。

この理論を地域に置き換えてみましょう。道路や公園などにゴミや落書きが放置されていると、犯罪者に「住民が暮らしている地域に関心がない」「犯罪しやすい場所」という印象を与え、治安の悪化を招く恐れがあります。

反対に、ゴミ拾いや破損した設備の修繕を行い、まちや道路が整備されていると、地域の目が行き届いていると認識され、犯罪を未然に防ぐことにつながります。「割れ窓理論」を理解し、応用していくことで、地域の中から犯罪が起きづらい環境をつくるのが大切です。

